

令和7年度
健康増進・体力向上のための「1学校1取組」

取組事例集

小学校編



新潟県教育委員会

小学校

- 1 相撲で「力強さ」と「柔軟性」～伝統行事に新たな価値を創造～ ②
上越市立国府小学校
- 2 バージョンアップ「つくしっ子タイム」 ① ② ④
系魚川市立中能生小学校
- 3 フラフープでだるまさんが転んだ ① ④
妙高市立斐太北小学校
- 4 朝のエクササイズで体力向上 ① ②
長岡市立阪之上小学校
- 5 誰もが“楽しさ”を見出す体育・保健体育授業を目指して ① ④
長岡市立四郎丸小学校
- 6 育みたい力を意識させた全校遊び ① ② ④
長岡市立宮本小学校
- 7 内履きで遊べる中庭の整備 ②
長岡市立越路西小学校
- 8 スタートラーニングの考案と共有 ②
三条市立嵐南小学校
- 9 SKFT（栄北フィジカルトレーニング）の実施とメニューのシェア ①
三条市立栄北小学校
- 10 9マス鬼ごっこ・ボール投げスペースの整備 ②
柏崎市立半田小学校
- 11 全校で取り組むTUT（楽しく運動タイム） ②
柏崎市立新道小学校
- 12 自校の課題に合わせたウォーミングアップメニューの提案 ②
小千谷市立東小千谷小学校
- 13 「ぐんぐんタイム」でSAQトレーニング ② ④
十日町市立吉田小学校
- 14 校内パワーアップ運動～要素ごとに運動できる場の設定と動画配信～ ① ② ④
村上市立さんぼく小学校
- 15 ソフトボール投げ強調週間～体育委員が「投げ方サポーター」に～ ②
燕市立分水小学校
- 16 「体力もりもり企画」と「元気アップ習慣」 ① ② ④
魚沼市立広神西小学校
- 17 目的を明確にしたICTの利活用 ① ② ④
出雲崎町立出雲崎小学校
- 18 Go! Go! 上郷マラソンバッジ ① ②
津南町立上郷小学校

19 縦割り班で体カテストに向けてトレーニング ① ②

阿賀野市立神山小学校

19 体育だより「情熱体育」 ① ②

佐渡市立羽茂小学校

20 「もりもりタイム」で体力向上 ① ②

胎内市立胎内小学校

〈スクールデータ〉児童生徒数・・・R7 新潟県学校体育調査
学校の平均・・・R7 新潟県体カテスト

運動・スポーツが好き・・・運やスポーツをすることが「好き」、「やや好き」と回答した児童・生徒の割合【平均】

小	88.7%	中	81.9%	高	79.1%
---	-------	---	-------	---	-------

運動・スポーツへの興味・関心・・・運動やスポーツへのいろいろな関わり方について興味や関心が「ある」、「ややある」と回答した児童・生徒の割合

①する	88.7%	81.0%	75.3%
②見る	85.3%	73.1%	73.8%
③支える	67.4%	58.7%	56.8%
④知る	52.7%	72.7%	73.3%
⑤つながる	67.7%	66.1%	61.7%

体育の授業が楽しい・・・体育、保健体育の授業が「楽しい」、「やや楽しい」と回答した児童・生徒の割合

小	91.6%	中	88.4%	高	83.0%
---	-------	---	-------	---	-------

〈取組の重点〉

- ① 体育・保健体育の授業が楽しい、好きという児童・生徒を増やすための授業改善
- ② 運動・スポーツが好きという児童・生徒を増やすための授業以外の取組
- ③ 運動領域と保健領域、体育分野と保健分野、体育と保健の一層の関連を図るための取組
- ④ 朝食欠食やスクリーンタイムの増加への対応など、望ましい生活習慣の定着に向けた取組

学校の平均

運動・スポーツが好き	86.2%(県88.7%)
運動・スポーツへの興味・関心	
する	88.2%(県85.3%)○
見る	81.3%(県67.4%)○
支える	59.6%(県52.7%)○
知る	73.9%(県67.7%)○
つながる	74.9%(県64.2%)○
体育の授業が楽しい	87.2%(県91.6%)

事例1 **重点1 ② ③ ④**

相撲で「力強さ」と「柔軟性」
～伝統行事に新たな価値を創造～

上越市立国府小学校

1 重点項目を設定した理由

毎年、地域の伝統として伝わる相撲大会を行い、児童は意欲的に練習に取り組んでいる。地域の方から、相撲にかかわる体の使い方などを教えてもらうことで、けがなくよりよい動きを目指している。しかし、よりよい動きを求める上で大切となる力強さや柔軟性などについて、体力テストの数値を見てみると、県平均値を下回る児童が多い現状がある。そこで、今年度は、相撲大会でよりよい動きができる自分を目指し、以下の内容について取り組んでいくことにする。

○相撲大会前に、全校が「力強さを求める運動」「柔軟性を高める運動」などに取り組む。

- ・全校が、地域の方から、相撲にかかわる体の使い方を学ぶ。
- ・6年生が「力強さを求める運動」「柔軟性を高める運動」を提案し、全校で取り組む。

2 実践の概要

(1) 地域の相撲協会の方から、相撲に関わる体の使い方を学ぶ

相撲大会に向けて、技の出し方を含めて、上学年を対象に体の使い方を教えていただいた。重心を低くすることや相手の脇に手を入れて押すことなど、児童が動けるように丁寧に教えていただき、その後の相撲の取組の仕方に力強さが出てきたことが見て取れた。その後、全学年が体育の時間に、1時間ずつ各学年に応じた体の使い方を教えていただいた。



(2) 相撲大会に向けて体育の準備運動の提案と実践

児童会の運営委員会が中心になって、「9月の相撲大会に向けて全校でがんばろう」と児童集会を開き、音楽に合わせた柔軟性や力強さを求める動きを紹介し、全校で取り組んだ。相撲大会が終了した後も教室で音楽に合わせて動き作りを楽しむ様子が見られた。



(3) 「新潟県立海洋高校相撲部」との交流会

相撲大会前に、海洋高校相撲部員の皆さんと交流会をもち、その動きを手本にしながら一緒に「力強さを求める運動」「柔軟性を高める運動」に取り組んだ。相撲部の皆さんの力強さと柔軟性の高さに驚きと憧れをもちつつ運動に取り組む姿が見られた。



3 成果と課題

○地域の相撲協会の方や海洋高校相撲部員の皆さんから教えてもらったり、実際の動き方を見せてもらったりしたことは、子どもたちの意欲を高めるよい機会になり、相撲大会では、力強い取組が増え、押し合いの接戦が展開された。相撲協会の方の相撲大会での講評においても、例年に比べて取組の内容が充実したことが伝えられた。また、力強さや柔軟性を高める運動をすることは、相撲大会に向けてよりよい動きやけが防止につながる大切なことであると児童が実感することで、進んで運動に取り組むことになった。

○アンケートによると「進んで体を動かしたり、運動したりしている。」の割合が、1学期末から2学期末に向けて多くの学年で上昇した。高まった力や運動への意欲を維持させていくこと、また、高学年が進んで運動に取り組めるようにすることが課題である。運動したいと思えるような環境づくりを考えるなど、取組を工夫する必要がある。



既存のコンテンツに対して、新たなねらいを設定されています。さらに関連した取組を融合させることで伝統行事の教育効果を一層高めている点が参考になります。

運動・スポーツが好き 88.5% (県 88.7%)

運動・スポーツへの興味・関心

する 80.8% (県 85.3%)

見る 69.2% (県 67.4%) ○

支える 42.3% (県 52.7%)

知る 65.4% (県 67.7%)

つながる 57.7% (県 64.2%)

体育の授業が楽しい 100% (県 91.6%) ○

事例2 重点 ① ② ③ ④

バージョンアップ「つくしっ子タイム」

糸魚川市立中能生小学校

1 重点項目を設定した理由

昨年度の児童アンケートでは、「スポーツ・運動が好き」が100%、「めあてをもって取り組んでいる」が94.6%という結果であった。休み時間は、鬼ごっこやボール遊び、一輪車等で体を動かして遊ぶ児童が多い。今年度も、本校の重点目標を意識して授業改善に努め、楽しみながら体を動かし、児童の体力向上を図る取組を進めていきたい。

【重点目標】めあてを決め 進んで健康な生活をする子

○運動意欲の向上を目指して子どもが楽しみながら運動できる機会を設定し、運動環境の整備に努める

○児童個々の運動面のよさや、課題の向上を目指した取組を行う

○生活習慣の改善に向け、家庭や関係機関と連携した取組を推進する

2 実践の概要

(1) つくしっ子タイム

全校児童がバランス良く体力の向上を図るため、全校運動の時間「つくしっ子タイム」を設定して実践を行った。

(ねらい) 運動に親しみ、めあてを意識して繰り返し取り組むことで体力向上を図る。

(実施日) 火・木曜の昼休み後の15分間

保健体育委員会が毎回計画を立て、鬼ごっこ、5分間走、ドッジボール、運動ウォークラリーなど、様々な全校遊びを行った。鬼ごっこでは、体力差を考えながら鬼を設定したり、ドッジボールやリレー遊びなどファミリー班（縦割り班）で協力して運動したりした。また、「つくしっ子SASUKE」など、児童が興味をもつ運動遊びも新しく取り入れた。10月はマラソン記録会に向けて5分間走を行い、走った距離をマラソンカードに記録した。取組の様子を掲示し、個人の意欲喚起につなげた。



つくしっ子SASUKE平均台と両足跳びにチャレンジ



5分間走にチャレンジ

(2) 児童が意欲的に運動に取り組む場の設定

マット運動や鉄棒運動の授業の時は、体育館にマットや鉄棒を設置し休み時間や昼休みに自主的に練習できるようにした。

授業だけでなく、休み時間にも逆上がりや倒立などにチャレンジし、技ができるようになった児童も見られた。3学期は、跳び箱を設置し、全校で取り組む姿を高めていく。



3 成果と課題

同学年の人数が少ないため、つくしっ子タイムで行う集団遊びを楽しむにしている。また、全校で取り組むことで、普段あまりしない遊びや運動にも挑戦する機会が増えた。マラソン記録会に向け、マラソンカードを活用して休み時間も意欲的に取り組んだ。記録会当日は、自己ベストを更新する児童も多かった。また、取組の様子を掲示することにより、互いに競い合う姿も見られた。

なわとびやマラソンカードの取組は、個人差が表れる。そこで、運動に消極的な児童も意欲をもって取り組めるようにカードの内容を工夫したり、運動する場を設定したりするなどしていきたい。



R5事例集掲載校ですが、実態に合わせて取組に見直しを加えられている点が参考となります。小規模校のメリットを生かし、児童の興味関心に応える場づくりが行われています。

学校の平均

運動・スポーツが好き	86.7%(県88.7%)
運動・スポーツへの興味・関心	
する	88.9%(県85.3%)○
見る	75.6%(県67.4%)○
支える	64.4%(県52.7%)○
知る	60.0%(県67.7%)
つながる	80.0%(県64.2%)○
体育の授業が楽しい	91.1%(県91.6%)

事例3 重点 ① ② ③ ④

フラフープでだるまさんが転んだ

妙高市立斐太北小学校

1 重点項目を設定した理由

体を動かすことの楽しさを体得させる授業を実施する。ICTを活用し、児童の技能を高めたり、思考力を育んだりしていきたい。また、体力テストで課題となる種目は2回目の体力テストを行う。楽しく且つ、課題解決ができるような取組を行う。自己の成長を実感し、運動に対する意欲が高まるように指導していく。

規則正しい生活リズムで生活することの大切さを指導する。年2回のリズムづくりチャレンジを通して、毎日規則正しく活動できるように働きかける。また、学校保健委員会の取組で、メディアとの関わり方についての講演会を開催したり、親子でメディア利用について話し合う機会を設けたりする。

2 実践の概要

(1) 跳躍力・柔軟性強化のための取り組み

体力テストの結果から、全国平均を下回る跳躍力・柔軟性強化のために、健康委員会の活動で2つの取り組みを行った。

1つ目は、「フラフープでだるまさんが転んだ」である。楽しく跳躍力を鍛えるために、委員会の児童が考案した。ルールは基本的なだるまさんが転んだと同じで、鬼の所に行くまでは体育館に散りばめられたフラフープをジャンプしないと進めないというルールで行った。

2つ目は、柔軟性強化ストレッチである。柔軟性強化に特化したストレッチを5つ考え、動画を作成し、学級で取り組むことのできるように工夫した。学級で取り組むことはまだできていないため、1月に実施する予定である。また、校内の駐車場にケンケンパができる円を描いた。



(2) 規則正しい生活リズムで生活することの大切さの指導

生活リズムを整えるために2学期「リズムづくりチャレンジ」を実施した。メディアにふれる時間の見直し、早寝・早起き・朝ごはんを呼びかけ、目標をたてた。「リズムづくりチャレンジ週間」では、チェックカードを活用して、生活習慣を振り返る機会を設定した。また、9月には学校保健委員会を実施した。スクールカウンセラーを講師として招き、メディアとの正しい付き合い方などについて講演していただいた。

3 成果と課題

(1)「フラフープでだるまさんが転んだ」児童は楽しく活動することができ、「またやってみよう！」という児童も多かった。しかし、上学年はルールや意図を理解し、正しく取り組んだものの、下学年はルールを理解しておらず、普通のだるまさんが転んだをやっている児童もいた。

(2)「リズムづくりチャレンジ週間」成果として、「リズムづくりチャレンジ」があると親子でメディア利用について考える機会があり、家のルールを見直す機会になったと話す保護者もいた。課題としては「リズムづくりチャレンジ週間」の間は意識して頑張ることができるが、終わってしまうと、生活リズムが乱れてしまう傾向がある。学校保健委員会への保護者の積極的な参加を呼びかけ出席率を上げる必要性がある



自校の課題を踏まえ、児童と考案した新たな遊びやストレッチに全校で取り組む点が参考となります。駐車場に円を描いた取組のように、場を準備することで自然と児童は動き出します。各校もこうした視点で校地・校舎を今一度見直してみてもはいかがでしょうか。

事例4 **重点 ① ② ③ ④**

朝のエクササイズで体力向上

長岡市立阪之上小学校

1 重点項目を設定した理由

R6年度保護者アンケートでの「お子さんは進んで運動に取り組んでいる」という質問に対し、肯定的な回答は76.6%であった。(R4:75.8%、R5:75.1%、R6:76.6%)そこで、以下の手立てを講じることとする。

- ①授業導入での運動遊びの場の設定 主運動の効果を高めるため準備運動として鬼遊びや折り返しリレー遊び等の運動遊びを実施する。また、体力向上に効果的である運動遊び例を職員間で共有する。
- ②体力向上に向けた朝のエクササイズの実施 学年での朝会の際に、体力向上を目指したエクササイズを実施する。年間を通じて実施することで、楽しみながら継続し、体力向上を図れるようにする。
- ③運動旬間の実施 全校で時期を合わせて、持久走、短縄跳び、長縄、鉄棒といった運動旬間を児童会中心で行う。

2 実践の概要

(1) 運動遊びの実践と推奨

年間を通じて体育授業の導入に、主運動の効果を高めるための運動遊びを全学年で行った。子どもたちが喜んで体を動かし、楽しんで体育授業に取り組めることを目指した。運動遊び例は職員間で共有して、単元に合う活動ができるように取り組んだ。休み時間には児童会が主体となり、休み時間にできる運動遊び例を中央廊下に掲示したり、運動遊びエリアを作って、学年関係なく運動遊びに親しめるようにした。器具の準備など普段の休み時間ではなかなかできない運動遊びエリアを作り、多くの子が楽しめるように工夫した。

(2) 体力向上に向けた朝のエクササイズの実施

朝の学年集会の際に、エクササイズを実施した。各学年の実態に応じて内容を決め子どもが主体となって取り組んだ。主に2種目取り組んでおり、1つは体をコントロールする動き、もう一つは体の力を強める動きである。全校体制で行うため、職員間で実施しているメニューの情報交換を行い、負担のない形で実施することを目指した。

(3) 運動旬間の実施

委員会が主体となって運動旬間を実施した。マラソンや鉄棒、縄跳びなど個人や集団としてのめあてを設定しながら行った。マラソンでは、休み時間にアリーナ（室内運動場）に音楽を流し、走る環境を用意した。鉄棒と縄跳びでは、奇数学年偶数学年でアリーナ使用割りを設定することで、異学年同士で教え合う姿を期待した。



アリーナ トントンパ (あそび方)

- ①まず5人ぐらいで集まる。
- ②棒を用いる。
- ③よーいスタートで始まる。
- ④相手の気持ちを考えて、棒を優しく地面に置く。
- ⑤一人でも、棒を落としたり**終了**


トントンパは、リズム合わせて体を動かすことで運動への興味、関心を高め、心身の効果を期待することができます。



3 成果と課題

委員会が作成した運動遊び掲示物を見ながら、休み時間に実際に遊んでいる子がどの学年でも見られた。普段やらない動きを楽しんでいる様子が見られた。また、体育授業の導入で運動遊びに取り組むことで、わくわくした表情で体育授業に臨む子の姿が多く見られた。朝のエクササイズでも先述の運動遊び例を活用したことで、楽しみながら体力向上を図ることができた。

一方、運動遊びやエクササイズがマンネリ化してくると、飽きにつながる実態があった。子どもたちは新しさを楽しむ傾向にあるため、反復の良さも感じさせつつも、新たな動きに親しめるように運動メニューの更新を定期的に行うとよい。

 朝のエクササイズを通年で実施された点、体育の導入に主運動につながる運動遊びを取り入れた点などが評価されます。いずれも教職員で情報共有を図り、全校体制で負担のない形を目指した点は参考となります。

運動・スポーツが好き	91.9%	(県88.7%)	○
運動・スポーツへの興味・関心			
する	85.3%	(県85.3%)	○
見る	76.8%	(県67.4%)	○
支える	79.1%	(県52.7%)	○
知る	74.4%	(県67.7%)	○
つながる	74.9%	(県64.2%)	○
体育の授業が楽しい	93.4%	(県91.6%)	○

事例5 重点 ① ② ③ ④

**誰もが“楽しさ”を見出す
体育・保健体育授業を目指して**

長岡市立四郎丸小学校

1 重点項目を設定した理由

本校では職員研修の研究主題を「誰もが”楽しさ”を見出す体育・保健体育授業を目指して」と設定している。体育授業に関しては「できる」と「できない」が明確に見えるため、得意か不得意か、好きか嫌いか二極化してしまう現状がある。そこで、体育科がもつ様々な「楽しさ」に気付くことをねらいに「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて取り組んでいく。

- ・他者と関わり合いながら学びを深められるような活動を取り入れる。
- ・授業UDを念頭に置き、誰でもできるように活動への恐怖感や抵抗感の軽減を図る場づくり。
- ・スモールステップ等、児童が達成感を得ながら活動を積み上げていく単元設定。
- ・実際の活動に加えルールづくりなど児童の主体性を促すような教材作り。

2 実践の概要

校内研修の研究主題である「誰もが”楽しさ”を見出す体育・保健体育授業を目指して～課題共有による”みんなの学び”づくりと自分の目標設定・ふりかえりによる”わたしの学び”づくりを中核にして～を目指し以下のように研修を進めた。

○上記の内容で全職員が体育授業を中心に公開授業を行った。

＜学体連全国大会プレ大会＞

○5年生ネット型

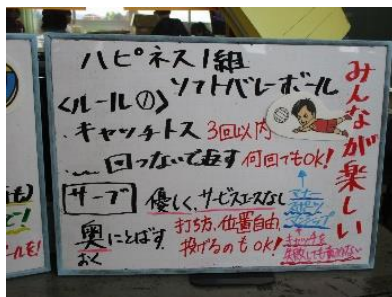
「ソフトバレーボールを基にした授業」の単元を3次で構成した。単元を通して「みんなが楽しむ」をテーマにおき、実践した。

- 1次では、学級全員が納得いくルール作り。
- 2次では、そのルールをもとに作戦やポジション、役割の検討。
- 3次では、1次と2次の学習を活かして大会を行った。

また、各次でワークシートを分け、ふりかえりの活動を行った。毎時間の振り返りをもとに、ルールやマナーなど児童の課題感を取り上げ、集団として課題を解決していくような単元を構成した。

3 成果と課題

「みんなが楽しむ」のテーマを、児童と教師とで丁寧に共有したことで、学級の全員が参加し、楽しむことができた。ボール操作が苦手な児童も、傍観者になるのではなく、学級で決めたルールにより、参加する必然性が生まれた。また、ボール操作が得意な子どもたちも、気を使って苦手な子どもにもボールをパスするのではなく、作戦を実行するために、みんなにつながぐというような姿が多く見られた。さらに、運動があまり得意ではない児童が、振り返り用紙に両面いっばいに作戦を書くなど、次時の期待をもつ姿が見られた。単元後に行った単元全体を通しての振り返りでも、「楽しメーター」という楽しさの指標でも、全員が100%に近い数値、またそれ以上の数値を記述した。全校児童が体育授業に前向きに取り組んでいる一方で、体力テストの結果では県平均に対し、低い数値の項目が多くある。今後は、体育授業における楽しさを追求するとともに、能力や技能の向上も価値付け、児童が「やってみたい」という気持ちから、「もっとできるようにになりたい」などの意欲を高めるような仕掛け・授業をつくっていく。



体育授業の在り方を研究の核に据え、全校体制で授業改善を図る校内研修の内容や進め方は、他校の参考となります。令和8年度全国学校体育研究大会でどのような成果や課題がまとめられるか楽しみです。

運動・スポーツが好き	93.9%(県88.7%)○
運動・スポーツへの興味・関心	
する	90.6%(県85.3%)○
見る	78.1%(県67.4%)○
支える	68.8%(県52.7%)○
知る	78.1%(県67.7%)○
つながる	81.3%(県64.2%)○
体育の授業が楽しい	97.0%(県91.6%)○

事例6 重点 ① ② ③ ④

育みたい力を意識させた全校遊び

長岡市立宮本小学校

1 重点項目を設定した理由

休み時間に体育館やグラウンドで遊ぶ児童が多い。一方で、運動の習慣化ができていない児童もいる。運動に苦手意識をもつ児童にも、運動の楽しさや喜びを感じてもらえることができるよう、自らの目標に向かって取り組むことができる体育授業や取組を行う。また、子どもがなりたいたい自分を目指して、進んで体を動かすことができる場を設定する。

生活習慣に関しては、家庭でメディア使用のルールが徹底されている家庭とそうでない家庭の差が大きい。生活習慣を改善する「元気アップ週間」の取組を中心に、学級での保健指導や家庭に向けた学校保健委員会等を行い、家庭の協力を得ながら、規則正しい生活のよさを実感できるようにする。

2 実践の概要

(1) 自分の動きを可視化する場の設定

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、児童が運動の楽しさやできる喜びを感じられるよう、これまでの実践とICTを組み合わせた授業を行った。

- ・鉄棒運動で、自分が確認したい技の動画を読み取らせ、体の動かし方を確認させた。
- ・ボールゲームで、攻守入り交じって行うゲームの行い方やルールを動画で確認させた。
- ・跳び箱運動で、タイムシフトカメラを使い、技を安定させるための方法について交流させた。
- ・ボールゲームで、タスクゲームの様子をビデオで撮影し、チームで作戦や自己の役割を確認させた。

(2) 休み時間に体を動かす児童を増やすための「全校遊び」

児童が楽しみながら運動の習慣をつけるため、委員会を主催として、月1回児童が計画した運動や遊びを昼休みに全校で行った。児童が行うルール説明の際には、どんな力を高めるために行う遊びなのかを紹介した。

- 9月「しっぽ取り」（スピード、全身持久力、周りを見る力）
- 10月「集団ハンカチ落とし」（敏捷性、スピード）
- 11月「花いちもんめ」（児童会祭に向けて縦割り班で協力する力）
- 12月「かみなり、狐狩り障害物リレー」（瞬発力、全身持久力）



(3) 望ましい生活習慣の定着に向けた「元気アップ週間」

中学校区共通の取組として、年3回「（第3回は1月に実施予定）元気アップ週間」を実施した。今年度は、「睡眠時間の確保」に重点を置いて取り組んだ。また、10月に児童・保護者を対象とした拡大学校保健委員会を行い、「睡眠の重要性」を親子で考え直すきっかけをつくった。そこで学んだ睡眠時間の目安が活かされるよう、元気アップ週間が始まる前に、養護教諭が全学年に事前指導を行った。

3 成果と課題

学校評価の「休み時間に、体育館やグラウンドで元気に遊んだ」の項目について「よく遊んだ」と答えた児童が前期より2.1%増えた。また、「体育で自分のめあてをもち、進んで運動した」の項目について肯定的評価をした児童が前期より6.3%増えた。体育の授業で進んで運動はできるようになっているが、運動の習慣化についてはさらに取組の工夫が必要である。また、「目標の睡眠時間を守った」の項目について「よく守れた」と答えた児童が前期より4.3%増えた。否定的評価をしている児童に個別に指導していくなど、今後も学年の実態に合わせて睡眠の重要性を考えさせていく。



昼休みを活用して全校で運動や遊びを実施し、その際に高めたい力を児童に説明している点が参考となります。意識しながら活動することでより成果が高まると期待されます。

運動・スポーツが好き	89.3%	(県88.7%)	○
運動・スポーツへの興味・関心			
する	81.0%	(県85.3%)	
見る	51.2%	(県67.4%)	
支える	39.8%	(県52.7%)	
知る	45.2%	(県67.7%)	
つながる	51.2%	(県64.2%)	
体育の授業が楽しい	88.1%	(県91.6%)	

事例7 重点 1 2 3 4

内履きで遊べる中庭の整備

長岡市立越路西小学校

1 重点項目を設定した理由

本校は児童数に対して校地が広く、活動できる範囲が広い。そこで、鉄棒、サッカーゴールなど運動の場を整えて、運動できる機会を増やしていきたい。また、学校林や中庭をうまく活用し、休み時間に身体を動かせる場を増やしたいと考える。児童会活動である委員会が中心となり、全校遊びを計画・実行する中で、身体を動かすことの楽しさを全校児童に感じてもらいたい。

2 実践の概要

(1) 遊び場や運動できる場の整備・活用

身体を動かして遊べる場を増やすために、中庭の整備を行った。昨年度は一輪車と竹馬を常設し、今年度はバトミントンやグローブを常設した。さらに、内履きで出てもいいようにしたことで、利用する子どもたちが大幅に増えた。

(2) 委員会による全校遊び

委員会が企画した全校遊びを昼休みに行った。教師側から働きかけずとも、子どもたちの「やってみたい！ やりたい！」という思いから取組がスタートした。日時や企画する委員会があらかじめ決まっているわけではなく、放送で呼びかけて集まった子どもたちで行った。



3 成果と課題

(1) 遊び場や運動できる場の整備・活用

- ・遊具を増やしたことで、積極的に身体を動かす子が増えた。
- ・内履きで出られるようにしたことから、中庭を利用する子が増えた。身体を動かすだけではなく、座って話をするなど思い思いの時間を過ごしている。
- ・児童アンケートの「進んで身体を動かしているか」の項目では、肯定的評価が8割を超えているものの、前回よりは下がっている。来年度も場の整備を引き続き行い、楽しく身体を動かせる環境を整える。
- ・本校の課題である体幹を鍛えられるような遊びや遊具を取り入れる。

(2) 委員会による全校遊び

- ・高学年が中心となって企画、運営をすることで、全校が運動に参加しやすい雰囲気が生まれた。
- ・普段あまり身体を動かさない高学年の子たちも、「仲間が企画してくれたから」と、進んで参加する姿が見られた。
- ・運動に限らず、子どもたちの「やってみたい！ やりたい！」という意見を実現できるような児童会活動や学校を目指し、支援を続けていく。



規制する方向のルールが多くなりがちですが、それを見直して運動できる環境を整備された点が評価されます。既存の環境(中庭)に着目し、運用方法を工夫することで成果をあげられた点が参考となります。委員会による全校遊びは、いわゆる「この指とまれ！」というスタイルで行われており、異年齢の仲間が集団遊びを楽しむ力が育まれていきそうです。

運動・スポーツが好き	85.7%	(県88.7%)
運動・スポーツへの興味・関心		
する	80.8%	(県85.3%)
見る	55.3%	(県67.4%)
支える	37.5%	(県52.7%)
知る	51.7%	(県67.7%)
つながる	61.2%	(県64.2%)
体育の授業が楽しい	90.7%	(県91.6%)

事例8 重点 1 2 3 4

スタートラーニングの考案と共有

三条市立嵐南小学校

1 重点項目を設定した理由

昨年度の体力テストの結果を見ると、「上体起こし」において県平均値を下回る学年が多く見られた。また、全校児童が700人を超える規模の学校であり、体育の授業での児童一人一人の運動量の不足が課題となっている。

「楽しい」「運動量が確保できる」スタートラーニング（導入活動）を校内で提案し、体育の授業の導入で継続して実施する。また、スタートラーニングの内容は上体起こしで使用する腹筋等を使う運動を中心に構成する。約1か月間、提案したスタートラーニングを取り入れた授業を実施した後に、上体起こしを体力テストと同様の方法で行い、6月に体力テストで行った上体起こしの結果と比較する。スタートラーニングで課題解決に向けた取り組みを行うことで、体育の授業を楽しいと感じる児童の増加や体力の向上を目指す。

2 実践の概要

(1) 発達段階に合わせたスタートラーニング（導入活動）の考案と共有

昨年度の体力テストの「上体起こし」の結果を踏まえ、上体起こしで使用する腹筋等を使うスタートラーニングを考案した。

また、発達段階やクラスの実態に合わせて使い分けられるように「低学年向け」「中学年向け」「高学年向け」の運動を2つずつ考案し、解説付きの手本動画を全職員に共有した。



(2) 体育の授業でのスタートラーニングの実施

(1)で考案したスタートラーニングを11月から12月初旬に各学級の体育の授業の導入活動として5分程度実施した。全校児童が700人を超える規模の学校であり、一回の体育の授業でも60～70名の児童が活動する。そのため、これまでも児童一人一人の運動量の確保が課題として挙げられてきた。今回のスタートラーニングの実施により、「運動の楽しさを感じ、その後の活動につなげる」ことや「体力の向上」「児童一人当たりの運動量の確保」を目指した。



(3) 「上体起こし」における体力向上

スタートラーニングの実施によって児童の体力が向上したかを検証した。12月初旬に6月に行った体力テストと同じ方法で「上体起こし」の記録を測定し、6月の体力テストの記録と比較、検証をおこなった。

3 成果と課題

スタートラーニング（導入活動）を解説付きの動画で全職員に共有したことによりどの職員が体育の授業をしても、スタートラーニングを実施することができた。また、発達段階別のスタートラーニングによりクラスの実態に合わせて運動することができ、授業の導入で児童が運動を楽しむ様子が見られた。「上体起こし」の記録を6月と12月で比較したところ、児童の半数以上が記録を伸ばしていた。このことから、スタートラーニングの実施が体力の向上につながったといえる。



自校の体力的な課題、あるいは学校規模による問題点を踏まえてトレーニングメニューを考案し、全職員で共有しながら全校体制で取り組まれた点が評価されます。「上体起こし」以外の種目についても応用できる汎用性もあり、広がりが期待できます。

運動・スポーツが好き 78.0% (県 88.7%)

運動・スポーツへの興味・関心

する 90.0% (県 85.3%) ○

見る 60.0% (県 67.4%)

支える 16.0% (県 52.7%)

知る 38.0% (県 67.7%)

つながる 48.0% (県 64.2%)

体育の授業が楽しい 90.0% (県 91.6%)

事例9 重点 ① 2 3 4

SKFTの実施とメニューのシェア

三条市立栄北小学校

1 重点項目を設定した理由

当校では、休み時間に体を動かして遊んでいる児童が多く見られる。一方で、体育の授業が苦手であるという児童も少なからずいる。そうした児童が体育の授業が楽しいと思い、体力を向上させられるように授業を改善していきたい。

○基礎体力の向上を目指したSKFT（栄北フィジカルトレーニング）の実施

○学習カードと体育ファイルの活用

○ICT機器の活用

2 実践の概要

(1) 基礎体力の向上を目指したSKFT（栄北フィジカルトレーニング）の実施

学期ごとに、前年度の体力テストで落ち込んでいる能力の強化を目指した、楽しくて効果的なメニューを体育授業に取り入れ、今年度は柔軟性の向上に継続して取り組んだ。

①柔軟性…1学期

前年度の体力テストで課題があったため、今年度取り組んだ。体育館にトレーニングの写真を貼り出し、全校で統一したメニューに取り組めるようにした。

②ペース走…2学期

今年度から持久走ではなくペース走に移行したことから、時期を9月から11月に変更し、体育館で集中して取り組めるようにした。

③縄跳び…3学期

3学期は全校なわとびタイムを新設し、2週間、苦手な子どもみんなで頑張るという時間を設ける予定である。

(2) 学習カードと体育ファイルの活用

水泳、ペース走、なわとび等、全校で統一した学習カードを使用するようにした。カードはめあて、取組、成果が分かるもので、子どもが楽しさを感じられるようにし意欲向上につなげることができた。また、6年間使うファイルに学習カードや体力テストをファイリングし、昨年の自分の記録より良い記録を目指しやすくなった。

R7【2学期】SKFTメニュー

1 サーキットトレーニング

2 5分間走・3分間走・5周走・3周走

3 ボールを使ったメニュー

一人で

- ①くつの周りを転がす
- ②八の字で転がす
- ③膝を伸ばして、転がす
- ④足を離して、転がす
- ⑤おなかの周りを回す
- ⑥八の字で回す
- ⑦投げ、手拍子をして、キャッチ
- ⑧投げ、ボールをおんぶ

二人で

- ①背中合わせで、横向きで、手渡し
- ②背中合わせで、上と下で、手渡し
- ③背中合わせで、座って、横向きで、手渡し
- ④キャッチボール (いろいろなやり方)

4 鉄棒リレー

スタートラインから、走って行って、技をやったら、戻って来て、タッチして交代

- ①横上がり3回
- ②前回り下り3回
- ③逆上がり3回
- ④好きな技で (目標技など)

※逆上がりなどができない場合は簡単な技を回数を増やしてやるなどで対応する

※1~4のメニューから、授業の内容に合わせて取組ませていく。週1回以上。

3 成果と課題

SKFTの取組については、児童が楽しんで取り組んでいる様子が見られた。普段運動が苦手と感じている児童にも、授業開始5分間のトレーニングとして定着すると、楽しみにしている様子が見られた。授業内容に応じて選択できるように内容をいくつか用意し、児童が飽きずに取り組めるようにしたことも積極的な取組につながったと思われる。職員間でもミニ研修と称してSKFTメニューの共有をする時間を設けたことで、学年間での取り組み方にばらつきが出ないようにした。特に、男子に県平均より落ち込んでいる種目が多い。引き続き、基礎体力の向上を目指して取り組んでいく。

ファイルの活用も定着しつつある。自分の昨年度の記録をもとに、今年度は〇回を目指そうといった児童の声も聞こえるようになった。

ICTの活用が進み、児童がタブレット端末を使って自他の動きを撮影できるようになってきた。より細かい動きを確認したり、模範映像を見てイメージを高めたりすることを今後も指導する。



自校の課題を踏まえ、体力向上を目指して考案されたSKFTの発想が素晴らしく、児童の意欲を高める取組であることが評価されます。学期ごとに高めたい体力を焦点化している点、ミニ研修を行い教職員間でメニューをシェアしている点も参考となります。

学校の平均

運動・スポーツが好き	88.1%(県88.7%)
運動・スポーツへの興味・関心	
する	83.2%(県85.3%)
見る	70.8%(県67.4%)○
支える	40.0%(県52.7%)
知る	61.1%(県67.7%)
つながる	68.1%(県64.2%)○
体育の授業が楽しい	89.2%(県91.6%)

事例10 重点 1 2 3 4

9マス鬼ごっこ・ボール投げスペースの整備

柏崎市立半田小学校

1 重点項目を設定した理由

昨年度は、全校を対象とした運動イベントに力を入れてきた。参加は任意だったため、運動が嫌いな児童の参加はあまり見られなかったと考える。今年度は、日常的にできる運動遊びをとおして基本的な体力の向上と運動が好きと答える児童の増加をねらいとしている。当校には、広いグラウンド、広場等、運動ができる環境がある。そこで、運動遊びができる環境を整備し、様々な運動遊びができる場を設置する。具体的には、現在使用していない一輪車等の遊具を設置できるように環境を整備する。また、体育館やグラウンド、広場に走跳投の運動を意識した運動遊びができる場の設定を目指す。雨の日でも体を動かして遊べる室内のスペースなども整備していきたい。

2 実践の概要

(1) 体育委員会主催の運動イベント

体育委員会を中心に、10月に全校鬼ごっこ、12月に全校ドッジボールを企画運営した。昨年度に引き続き、下学年上学年に分かれて行った。参加は任意ではあったが、多くの児童が参加した。



(2) 運動環境の整備

- ①今年度は運動ができる場所を整備し、2階のテラスを開放した。テラスでは鬼ごっこができるスペース（9マス鬼ごっこ）を確保する等、児童が運動したくなるような仕掛けを行った。
- ②今年度はボール投げスペースを新設し、的当てゲーム感覚で運動遊びができるエリアも設けた。
- ③学校の裏にある丘（まよいの森）を整備し、休み時間自由に遊べる場所にした。自然に囲まれながら元気よく体を動かしている児童の様子が見られた。



3 成果と課題

(1) 体育委員会主催の運動イベント 児童会活動の一環として取り組むことで、児童らの主体性を重んじることができた。一方で、全員参加でないことから、全校児童が運動する楽しさや喜びを感じられる活動にはなっていないと考える。そこで、冬季には、縦割り班で大縄に取り組み、運動遊びを通じて異学年交流を行い、運動の楽しさや喜びを感じさせるとともに、集団の一員としてよりよい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てていきたい。

(2) 運動環境の整備 運動環境の整備を行うことで、児童の運動意欲を高めようと取り組んだ結果、様々な場所で体を動かしながら休み時間を過ごす児童の様子が見られた。しかし、雨天時には遊び場所が限られてしまい、体を動かしたい児童の要望を応えることが難しかった。今後は、室内での運動遊びができる場所と道具の工夫を行い、進んで運動に取り組む児童を増やしていきたい。



校舎、校地を改めて見直し、既存の設備を生かして運動ができる環境を整備された点が評価されます。育みたい力、身に付けさせたい動きから運動遊びを考え、毎年プログラムを準備していくことで取組がますます深化していくことが期待されます。

学校の平均

運動・スポーツが好き 85.0%(県88.7%)

運動・スポーツへの興味・関心

する 77.0%(県85.3%)

見る 65.0%(県67.4%)

支える 54.0%(県52.7%)○

知る 75.0%(県67.7%)○

つながる 67.0%(県64.2%)○

体育の授業が楽しい 91.0%(県91.6%)

事例 11 重点 1 ② 3 4

全校で取り組むTUT（楽しく運動タイム）

柏崎市立新道小学校

1 重点項目を設定した理由

休み時間に、体育館やグラウンドで元気いっぱい遊ぶ児童と、教室で複数人のグループで絵を描いたり、カードゲームで遊んだりする児童の二極化が見られる。このような実態から、運動することの楽しさを十分に感じていない児童が多く、休み時間に体を動かす児童が減少しているのではないかと考える。

そこで、TUT（楽しく運動タイム）を実施し、自分が行いたい運動に主体的に取り組めるようにする。また、友達と関わり、楽しく運動できるように働きかける。また、TMA T(たのしくみんなであそぼうタイム)を実施、他学年と交流しながら、楽しく遊ぶ。

2 実践の概要

(1) TUT（楽しく運動タイム）の実施

月に1回程度、様々な運動能力（瞬発力・巧緻性・柔軟性・持久力）を高めることができる10のコーナーを設置し、全校で体を動かした。児童がどの運動をするか選択し、主体的に活動していた。

運動後は、汗をかいている児童が多く「またやってみたい!」「ジャンプするのが楽しいね」「次回は○○のコーナーに行ってみよう」など、運動することに対し、意欲的になった児童の姿が見られた。

(2) 元気チャレンジ週間

望ましい生活習慣を実践しようとする意欲を高め、自己管理ができる力を養うために年に3回実施した。期間中は元気チャレンジ週間カードを持ち帰り「早寝、早起き、朝ごはん、減メディア、メディアルール」の5項目について、児童や保護者がルールを意識しながら生活を5日間送った。最終日には、「5日間の自己判定」「5日間の感想」「おうちの方から5日間の判定」「おうちの方からのコメント」を記入し振り返った。



3 成果と課題

TUTや授業等から様々な運動に挑戦し、たくさん体を動かすことができた。また、運動することへの楽しさを実感していた。児童主催で行ったTUT種目は、種目内容が「やってみたい」と思えるものが多く、たくさん児童が参加し、楽しく活動する姿が見られた。また、早起きをし、朝ごはんを毎日欠かさず食べる児童がほとんどであり、望ましい生活習慣を送れる児童が増えた。

課題としては、TUTのねらいである「運動への楽しさ」を実感している児童は多い。一方で、運動が苦手、嫌な児童は、「楽しさ」を実感していないことが学校アンケートから分かった。そのような児童も「楽しい運動」と思える活動を考え取り組んでいく。また、全体的に「減メディア」の項目の数値が低い。「メディアとのかかわり方」を理解し、家庭と連携しながら、健康的な生活習慣の定着を図れるようにする。



児童が主導して計画したTUT(楽しく運動タイム)を通年、全校体制で実施された点が評価されます。ネーミングすることにより、児童の活動意欲が高まるだけでなく、教職員も含め学校としての一体感が醸成されると考えます。

学校の平均

運動・スポーツが好き	88.2% (県 88.7%)
運動・スポーツへの興味・関心	
する	88.2% (県 85.3%) ○
見る	64.7% (県 67.4%)
支える	52.9% (県 52.7%) ○
知る	52.9% (県 67.7%)
つながる	52.9% (県 64.2%)
体育の授業が楽しい	100% (県 91.6%) ○

事例 13 重点 1 2 3 4

「ぐんぐんタイム」でSAQトレーニング

十日町市立吉田小学校

1 重点項目を設定した理由

伝統的に全校業間体育活動「ぐんぐんタイム」を週3回実施している。校舎を周回する約600mのコースを、自分の目標に応じて2～4周する持久走に取り組んだり、冬季や雨天時は体育館で縄跳びなどの体づくりに昨年度から取り組んだりしてきた。

今年度も、体育館でのぐんぐんタイムの活動に工夫を加えることを継続していく。コーディネーショントレーニングやボール投げ、ストレッチなどの多様な運動メニューを実施していく。このことにより、運動に親しみをもち、進んで体づくりをする子どもを目指していく。例年、メディアルールを守っているかという問いに対し、児童と保護者の認識にズレがあるという課題がある。今年度もメディアコントロール講演会を実施し、自分のメディアとの付き合い方を見つめ直すとともに、自分で決めたメディアのルールを「わたしのルール」として家族と共有することで、自己管理能力を高め、家族で望ましい生活習慣を定着させようとする姿を育てていく。

2 実践の概要

(1) 週3回の全校業間体育「ぐんぐんタイム」の実施

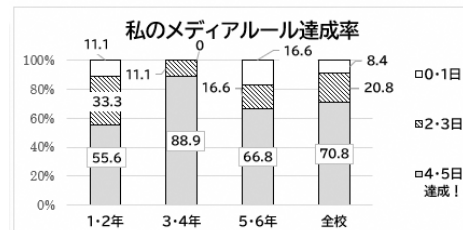
持久走や体づくり運動に取り組む「ぐんぐんタイム」を週3回、4月から継続して行った。晴れた日は、主に1周約600mの校舎の周りのコースを周回する持久走に取り組んだ。各々目標を決めて2～4周走った。外が使えない日は、体育館でSAQトレーニングや縄跳び、鉄棒運動を行い、多様な運動に取り組ませた。また、めあてをもって楽しく取り組めるように、運動カードを工夫した。このことにより、進んでいろんな運動に挑戦しようとする意欲の高まりが見られた。特に、鉄棒では、休み時間にも積極的に挑戦する姿が見られ、楽しく運動する児童が増加した。



児童アンケートでは「めあてをもって進んで運動に取り組むことができた」と回答した児童が96%にのぼった。

(2) メディアコントロールの取組

中学校区での取組で、メディアコントロール講演会を実施した。自分とメディアの付き合い方を見直すよい機会となった。講演会の後、各々「わたしのメディアルール」を決め健康づくり週間などとおして、定期的にルールを見直す機会を設け、メディアコントロールへの意識付けを行った。児童の達成率は70.8%になった。



また、学校評価の保護者アンケートで「わたしのメディアルールを守っている」と回答した保護者は、R6:46.2%→R7:61.5%と、児童・保護者共に意識は改善されてきている。

3 成果と課題

運動カードを工夫したことで意欲が増し、楽しみながらめあてに向かって運動に取り組むことができた。また、健康づくり週間など、「わたしのメディアルール」を見直したり振り返ったりする場を定期的に設けたことで、ルールをしっかりと守ろうとする子どもが増えた。一方、「運動が苦手」「運動が好きではない」「メディアルールを守れなかった」等の児童が固定化してきている。これらの児童への働きかけの工夫が必要である。



これまで実施していた活動を継続するだけでなく、見直しを加えてさらにより良いものにしようとして取り組まれた点が評価されます。「多様な運動に取り組ませる」というねらいを明確にしてプログラムを構成されている点も参考となります。

運動・スポーツが好き	94.4% (県 88.7%)	○
運動・スポーツへの興味・関心		
する	93.1% (県 85.3%)	○
見る	80.6% (県 67.4%)	○
支える	48.6% (県 52.7%)	
知る	54.2% (県 67.7%)	
つながる	80.6% (県 64.2%)	○
体育の授業が楽しい	95.8% (県 91.6%)	○

事例 14 **重点 ① ② ③ ④**

校内パワーアップ運動

～要素ごとに運動できる場の設定と動画配信～

村上市立さんぽく小学校

1 重点項目を設定した理由

今年度も、1回目の体力テストから県平均を下回る1種目において重点的に取り組み、2回目の体力テストで1回目の記録より数値が改善された児童、もしくは県平均を越える児童の割合を80%以上を目指す。この取組を通して子どものやる気を引き出し、家庭や放課後でも運動しようとする意欲を育てる。

児童のメディアの使用状況を正確に把握するため、評価基準に学期末に行う保護者アンケートをとり入れる。「メディアコントロールウィーク」を行う前に、「メディアの使用時間は2時間まで」という学校のきまりを共有した上で家族でルールを決めてもらう。学期末の児童と保護者アンケートで、「家族とのルールを守れた」という回答が70%以上になることを目指す。

2 実践の概要

(1) 校内パワーアップ運動の実施

6月の「第一回体力テスト」結果を学年ごとに分析し、それぞれ苦手とする種目を明らかにした。11月の「第二回体力テスト」では、苦手な種目の記録を改善できるよう、体育部でそれぞれに必要な要素とそれを高めるための「校内パワーアップ運動」を行い、校内に種目ごとの要素に関わる運動ができる場所を設置し取り組んだ。また、体育の授業前や家庭でも楽しく運動ができるよう、タブレットを活用「づくり運動の動画配信」を行い、全校と家庭にも情報共有することで、体力アップを目指した。



あくりよくアップ フェス①

ろくほく足じゃんけん

足じゃんけんルール

- ① 2人組になります。
- ② 1人がろくほくに足をかけずにぶら下がります。(足でじゃんけんする！)
- ③ もう1人がぶら下がっている人の前に立ちます。(手でじゃんけんする！)
- ④ ぶら下がっている人がかかったら、こうだ いします。(せいげん時間でこうだい)

(2) メディアコントロールウィークの実施

年度当初に、「メディアと健康」に関する養護教諭からの保健指導を行うことで、メディア時間を減らすための強い意識付けを行った。その後、5月には、家族で「メディアルール」を話し合ってもらい、時間場所、内容などを具体的に決めて取り組んだ。9月には、メディア時間を減らすことができるように、参考となるような「各家庭のメディアルール」を保健だよりで紹介した。年間を通して、「メディアコントロールウィーク」の実施に合わせて、学年に応じた「健康的な生活」について保健指導を行うことで、規則正しい健康的な生活習慣の定着を目指した。

3 成果と課題

体育部からの呼び掛けや事前の学級指導により児童がお互いに声を掛け合い、「パワーアップ運動」に積極的に参加していた。自主性を促すことで、楽しく遊び感覚で気軽に参加できたことがその要因として考えられる。教え合いや学び合いの姿も見受けられ、全校が一体となって取り組む気運が高まった。「パワーアップ運動」を行ったことで「第二回体力テスト」では、各学年の県平均を超えた児童、もしくは「第一回体力テスト」の記録を超えた児童の割合は、全校で平均76%であった。

5月と9月の「メディアコントロールウィーク」の結果も考慮すると、特に夏休み明け生活習慣の乱れやメディアの長時間使用が見られることから、日常的な指導で、健康的な生活習慣の定着を図ること、家庭と連携した取組を継続して行っていく必要がある。



体力要素ごとに運動できる場を設定し、楽しんで取り組むことができるよう様々な工夫が仕掛けられている点が評価されます。また、家庭でも取り組めるよう動画を配信することで、保護者の意識啓発も図られている大変素晴らしい取組です。

事例 15 重点 1 ② 3 4

**ソフトボール投げ強調週間
～体育委員が「投げ方サポーター」に～**

燕市立分水小学校

学校の平均

運動・スポーツが好き	91.1%	(県 88.7%)	○
運動・スポーツへの興味・関心			
する	83.7%	(県 85.3%)	
見る	72.0%	(県 67.4%)	○
支える	57.3%	(県 52.7%)	○
知る	66.7%	(県 67.7%)	
つながる	67.5%	(県 64.2%)	○
体育の授業が楽しい	86.6%	(県 91.6%)	

1 重点項目を設定した理由

本校の児童は全体的にソフトボール投げの結果が低い傾向にある。そこで、ソフトボール投げを全校での重点取組に設定し、ソフトボール投げに関する技能の底上げを目指す。具体的には、10月～11月に「秋のソフトボール投げ強化週間」を実施する。体育の時間にソフトボール投げの目標を立てて練習を重ねることで、技能の向上を図る。また、「上手に投げられるようになった」「記録を更新できた」という達成感を感じさせることで、運動を好きと思える児童の増加に繋げる。

2 実践の概要

(1) 投げ方に関する指導資料の作成・共有

指導資料については、投てき動作を「構え・助走(ステップ)・体重移動・腕の振り・リリース」の5段階に整理し、イラストを用いて分かりやすくまとめた。特に、①利き腕と反対側の足の踏み出し、②腰・肩の回旋、肘を高く保つことを重点項目として示した。



(2) 委員会を中心としたアクティビティの企画・実践

ソフトボール投げ強調習慣と題して体育委員会が「投げ方サポーター」となり、休み時間を使ってミニ練習会を実施した。的当て形式のゲームやジャベリックボール投げ記録会を行うことで、楽しみながら練習できる環境を整えた。子どもたちが投てき動作への理解を深めるきっかけとなっただけでなく、記録や運動意欲の向上にもつながった。



3 成果と課題

投げ方の指導資料を用いて動作のポイントを可視化したことで、「腕の力だけで投げる」意識から、体重移動や体の回旋を使った投てきへと改善が見られた。体育委員会を中心とした活動により、ソフトボール投げに苦手意識がある子どもでも楽しみながら練習する姿が多く見られた。今後は子どもたちが「楽しく活動できた」だけでなく、「上手に投げられるようになった」という達成感をより得られるようにするため、各学年の発達段階に応じた練習方法の提示や、日常的・継続的に取り組める方策を検討していきたい。



自校の課題に着目し、児童とともに投力の向上を図るアイデアが評価されます。投げ方を知識として理解できるようにして、委員会企画の各アクティビティで楽しみながら動作を確認する流れは大変素晴らしいと考えます。その中にしっかり教え合い活動が仕込まれている点も参考となります。

学校の平均

運動・スポーツが好き	90.7%(県88.7%)○
運動・スポーツへの興味・関心	
する	87.4%(県85.3%)○
見る	67.8%(県67.4%)○
支える	64.4%(県52.7%)○
知る	70.1%(県67.7%)○
つながる	65.5%(県64.2%)○
体育の授業が楽しい	93.1%(県91.6%)○

事例 16 重点 ① ② ③ ④

「体力もりもり企画」と「元気アップ習慣」

魚沼市立広神西小学校

1 重点項目を設定した理由

休み時間や体育の時間を楽しみにし、運動に積極的に取り組む児童が多い。運動することに楽しさを感じ、目標に向かって精一杯取り組むことができる。運動技能を友達と比べて「できる・できない」と判断して、運動のモチベーションを保っている児童が多い。また、「元気アップ週間」という睡眠・メディアにポイントを絞って意識付けを行う取組みを行っている。期間内は、頑張ろうと取り組んでいる児童も多いが、個人差が大きい。「元気アップ週間」が終わると、意識して生活することが続かないことが現状である。

そこで、昨年度の自分の記録を確認してめあてをもたせる。単元後に、自分の伸びを確認し運動することへの意欲の向上を図る。また、単元中の児童の頑張りを認め、声掛け・お便り等で発信していく。また、現在のメディアとの関りを自覚し、どのように改善していくのか家庭と連携して考える。お便り、PTA 総会など保護者が集まる会の時に、メディアとの関り方を啓発していく。

2 実践の概要

「体力もりもり企画」と「元気アップ習慣」の実施

「他者との比較」ではなく、「昨年度の自分の記録」と比べて成長を実感できる取組を行った。体育の授業では、昨年度の体力テストの記録を確認し、自分なりのめあてをもって単元に取り組めるようにした。単元中は、記録の向上だけでなく、挑戦する姿勢や努力の過程を大切にし、声掛けを行った。体力テストを実施する週には「体力もりもり企画」として、休み時間に体力テスト種目の練習を行い、昨年度の記録を意識しながら取り組ませた。また、日常的な運動習慣づくりとして、休み時間に全校で「缶蹴り」を実施し、学年に応じて安全に楽しめるよう工夫した。

また、毎学期「元気アップ習慣」を実施し、メディアコントロールや正しい生活習慣について、家庭と連携しながら意識付けを行った。



3 成果と課題

体育の授業や「体力もりもり企画」を通して、児童が昨年度の記録を意識し、自分の伸びに目を向けながら運動に取り組む姿が見られた。体力テストの結果は全国平均と比べて高いとは言えないものの、自分の成長を実感し、運動への意欲を高めるきっかけとなった。「缶蹴り」では、全校児童が進んで参加し、学年を超えて体を動かす楽しさを味わうことができた。また、「元気アップ習慣」を通して、児童と保護者がメディアとの関わりや生活習慣を見直す機会となり、正しい生活を意識しようとする姿が見られた。

今回の取組では、運動の楽しさや意欲を高めることはできたが、日常生活の中で「体を動かす時間を自分で生み出す」という意識までは十分に育てることができなかった点が課題として挙げられる。今後は、体育や休み時間での運動と、家庭での生活の過ごし方を関連付け、児童が自ら生活を調整しながら運動量を確保していけるような指導や働き掛けが必要である。



単年度の結果に対してではなく、昨年度との比較に焦点を当て、めあてをもたせて取組が行われています。その各自のめあてに向かって行われる「体力もりもり企画」では、種目そのものの練習でなく、基礎体力の向上を図ろうとする点が参考となります。

事例 17 重点 ① ② ③ ④

目的を明確にしたICTの利活用

出雲崎町立出雲崎小学校

1 重点項目を設定した理由

休み時間には、グラウンドや体育館で体を動かして遊ぶことを好む児童が多いが、遊びの内容が偏っておりさまざまな運動に慣れていない様子が見られる。また、学年が上がるにつれ、体育授業について好き嫌いの二極化傾向が見られる。昨年度から同様の状態であるため、昨年度に引き続き、多様な動きを体験させていくことが大切であると考え、今年度も、以下の2点を重点的に取り組む。

- ・様々な運動に親しむことと、意欲の向上を目指して、楽しみながら運動できる場の設定に努める。
- ・一人一人の運動能力や体力の実態に応じたためあてを設定し、向上を図る。

2 実践の概要

(1) ICTの活用

主に中、高学年の器械運動やボールゲームにおいて活用した。マット運動では、手を着く位置などポイントとなる点を指導し、できているかを見返すために使用した。それぞれ体の動かし方を見直し、試行錯誤する姿が見られた。

(2) 児童会主催の運動促進イベントの開催

体力テストの結果を受け、筋持久力を高める運動を取り入れ、低学年「ぞうきんリレー」、中学年「うで立てPK」、高学年「手押し車じゃんけん」を、運動委員会が主催して行った。苦しい表情を浮かべていた児童もいたが、遊び感覚でできるため、一生懸命取り組んでいた。もう一つは「越すまでリレー」。当校で数年前から続いているイベントで、応援するために体育館に足を運ぶ児童もいる。今年度は、上学年の回と下学年の回に分け、参加人数は多くなったが、走り終わった児童の顔からは、充実感が伺えた。

(3) 学校保健委員会における「おなか元気教室」の実施

生活習慣チェックを実施後、朝食は摂っているが副菜が足りていない、朝起きる時刻が定まっていないという状況が顕著だった4年生と希望保護者に向けて、ヤクルト販売株式会社の方より「おなか元気教室」を実施していただいた。児童は、なぜ早寝、早起き、朝ごはんが大切なのかを理解することにつながったと考える。話の内容をふり返り、これからがんばりたいことを宣言していた。



3 成果と課題

ICTの活用やルールを工夫することで、考えながら体を動かしている様子が伺えた。また、学習カードや他児童との関わりによって、意欲的に運動に取り組む姿が見られた。

一方、やる気が出てきても、それだけでは技能向上につながらないため、用具の準備や練習方法を工夫していくこと。高学年になるほど手取り足取り指導できないため、研修等を通じて効果的な指導方法を学ぶ。冬場、体育授業以外に体を動かす場を確保することなどが今後の課題となる。



ICTの利用では、「手を着く位置」といった具合にポイントを絞ることで、撮影目的が明確になり、その後の活動に動画が上手に生かされていることが伺えます。児童会イベントのプログラムにもアイデアが見られ、工夫が凝らされています。生活習慣チェック後、結果から次の取組を実施されており、これらの点が参考となります。

事例 18 重点 ① ② ③ ④

Go!Go!上郷マラソンバッジ

津南町立上郷小学校

学校の平均

運動・スポーツが好き	91.7%(県88.7%)○
運動・スポーツへの興味・関心	
する	87.5%(県85.3%)○
見る	66.7%(県67.4%)
支える	70.8%(県52.7%)○
知る	65.4%(県67.7%)
つながる	83.3%(県64.2%)○
体育の授業が楽しい	95.8%(県91.6%)○

1 重点項目を設定した理由

休み時間に体育館で遊ぶ児童が多く、全校児童の半数以上は、運動・スポーツが好き、やや好きと回答している。低学年以外が複式学級の小規模校であるため、授業は1～3年生、4～6年生が合同で行っている。そのこともあり、同じ授業をする中で運動能力の差が見られ、運動能力が高い児童と低い児童がそれぞれ満足できる授業を行うことが難しい。そのため、今年度は、運動能力の差を考慮し、どの児童も自分の運動能力に合わせて、体を動かすことを楽しむことができる授業づくりに重点を置いて取り組む。具体的な取り組みとしては、児童のレベルに合わせた目標設定と振り返りの蓄積、ICT機器の効果的な活用、レベルに合わせた多様な場づくりの工夫、柔軟なルールへの工夫と改善を行う。

2 実践の概要

○個々に応じた距離と目標設定の工夫（マラソン記録会の取組）

(1) 練習の意欲を高めるための「マラソンデジタルバッジ」

マラソン練習で走った距離をカードに記録する取組と合わせて、走った距離に応じてタブレット端末にデジタルマラソンバッジを配付する取組を行った。マラソン練習で10マス分、カードに色を塗るとそれに合ったマラソンデジタルバッジが配付される仕組みにした。児童はバッジが貯まっていくことを1つの楽しみにして、マラソンタイムの練習に意欲的に取り組む姿が多く見られた。また、休み時間に自主的に走る児童もおり、楽しみながら体力向上のための練習に取り組んでいた。



(2) 体力に応じた距離と目標設定


昨年度まで、学年部単位で一律の距離を走っていたが、持久走が得意な児童と苦手な児童で意欲に差があることが課題として感じられた。そこで、今年度は1000m、1500m、2000mの3つから、自分の体力や目標に応じた距離を個々で選択させる方法に変更した。そうすることで、走ることが得意な下学年の児童は長い距離を選択し、意欲的に練習に取り組むことができた。また、走ることに苦手意識をもつ児童は距離を短くする児童はいなかったが、練習の段階で様々な距離を試しながら自分で考えて練習に取り組むことができた。本番では、自分の選んだ距離で目標を立て、全員が走りきることができた。得意な児童も苦手な児童も自分の成長を感じながら取り組むことができた。



3 成果と課題

距離を選択制にしたことで、チャレンジしたい児童は長い距離を選ぶことができ、自分の体力を向上させようと意欲的に取り組むことができた。また、苦手な児童にとっても短い距離も選べるという選択肢を増やしたことで、自分で決められるということが安心材料になっていた。結果的に短い距離を選択した児童はいなかった。逆に長い距離に挑戦し、自分の力を高めようと意欲的に走る姿がたくさん見られた。

また、マラソンデジタルバッジを配付することで、それを集めることが意欲に繋がり、自主的に練習する児童の姿もたくさん見られた。全体的に児童の意欲を高めながら、マラソン記録会までの取組ができたと感じている。一方でコース練習の回数が少なく、距離を十分に吟味することができなかった。来年度、同じ取組をするときは、コース練習の回数を増やし、自分の体力に応じた距離を選択するための判断材料をしっかりと確保する必要があると感じた。

 生徒の活動意欲を喚起するアイデアとして「マラソンデジタルバッジ」を考案されました。画像にもあるとおり、完成度も高く、バッジを貯めていくシステムも手立てとして非常に参考となります。年度をまたいでも貯められ、さらなるレベルアップができるのか？など興味が膨らみます。

運動・スポーツが好き	88.0%(県88.7%)
運動・スポーツへの興味・関心	
する	92.0%(県85.3%)○
見る	86.0%(県67.4%)○
支える	48.0%(県52.7%)
知る	62.0%(県67.7%)
つながる	80.0%(県64.2%)○
体育の授業が楽しい	86.0%(県91.6%)○

事例 19 重点 ① ② ③ ④

縦割り班で体カテストに向けてトレーニング

阿賀野市立神山小学校

1 重点項目を設定した理由

体育の学習にめあてをもって積極的に取り組むことができる。他学年とも仲良く遊ぶことができるが、休み時間に体を動かして遊ぶ児童は限られており、遊びが固定化されている現状がある。

本年度は、体を動かすことが楽しいと感じられる授業づくりや児童が体を動かしたくなる設備・機会の設定に取り組む。具体的には、体育の授業づくりや多様な運動経験の習得に関わる職員研修の実施。縦割り班を活用した体育的行事の企画・運営と設備作り。単元や領域に関わる準備運動を積極的に取り入れ、多様な運動経験を積ませる。

2 実践の概要

(1) 縦割り班での体カテスト練習

縦割り班活動として、「上体起こし」「長座体前屈」「反復横跳び」「立ち幅跳び」の4種目に加え、俊敏性や投げる力を高めるトレーニングを行い、合計6種目の活動に取り組んだ。正しい測定方法や動きを確認しながら練習することで、体カテストへの理解を深めることができた。



下学年は上学年の動きを手本にし、上学年は下学年をサポートしたり手本となったりする姿が見られ、互いに意欲を高め合う活動となった。

(2) NPO 法人阿賀野市総合型クラブによる小学校体育補助事業

低・中・高学年それぞれに応じた「マット運動」の基本的な内容や場づくりについて指導していただいた。児童が取り組みやすく、楽しさを感じられる活動構成により、運動への意欲が高まり、これまで苦手意識をもっていた技にも挑戦しようとする姿が多く見られた。



(3) 体育の授業づくりに関する職員研修

夏季休業中に講師を招き、陸上運動「走り高跳び」「ハードル走」の授業づくりや指導方法について研修を行った。「できない・苦手」と感じている児童に対して、運動感覚を養い、動きを身に付けるための効果的な声掛けや場づくりについて、具体的な手立てを学ぶことができた。実技を交えた研修を通して、授業改善につながる理解が深まった。



3 成果と課題

補助事業の「取り組みやすく楽しさを感じる活動」を通して体を動かすことの魅力に気付き、休み時間や放課後にも進んで球技や体を動かす遊びに取り組む姿が多く見られるようになった。授業以外で自分の思いや発想を生かして自由に体を動かす経験が増えることで、運動することに対する意欲も向上した。一方、外部事業の指導で得た成果を一過性に終わらせず、教職員が主体となって日常の授業に組織的かつ継続的に取り入れていくための工夫が求められる。



R6 事例集掲載校ですが、本年度は縦割り班でトレーニングに取り組む試みを実践されました。異学年で交流しながら、実施種目に加えて工夫したトレーニングを行っている点が評価されます。校外のリソースを活用して授業の高度化を図るとともに、職員研修も継続して授業改善を進められている点は大いに参考となります。

事例 20 重点 ① ② ③ ④

体育だより「情熱体育」

佐渡市立羽茂小学校

1 重点項目を設定した理由

当校では、全体的に県平均を下回っている項目が多く、特に柔軟性が課題である。そのため、運動にかかわる基礎・基本的な能力や素地を養うための運動をしたり、運動に進んで取り組む姿を目指した授業を行ったりし、体力向上を図っていく。

生活習慣の中でも食やメディアに課題があり、自分で見直し、生活を工夫したり、改善したりできるような児童の姿を目指す。そのために、食事の大切さを伝えるなどし、自ら考えて、食に関わろうとしたり、メディアのメリット・デメリットを伝え、適切なメディアとの関わり方を考えたりする取組を図っていく。

2 実践の概要

(1) 職員への資料提示

体育授業に役立つ情報や実践の紹介を体育部だよりで職員に共有する。単元計画、ウォーミングアップの工夫、場の工夫についてそれぞれ記載し、成果と課題を含めて確認することで他の授業者が同じ単元を実践する際の参考にできるようにしている。

(2) 誰もが進んで運動に取り組む姿を目指した授業づくり

(公開授業)

6年生 球技 ゴール型

「アルティメット」

① 仲間と共に学び合う集団の姿を目指すための工夫

- 男女関係なく分け隔てなく、受け入れられる学級の雰囲気を作ることで、共に学び合う集団を作る。
- 単元をとおして、チームで練習する時間（スキルアップタイム）を設定する。
- 味方の動きに注目しながらゲームの動画を見て振り返りをし、作戦を考える（作戦タイム）。
- 反則やルールを児童同士で決め、反則をした場合は自分で判断したり、相談したりして進める。

② 運動の楽しさを味わう姿を目指すための工夫

経験したことがない運動を実践することで、技能差のない状態から始められ、多くの児童が運動を楽しむことができることを期待する。

- 簡易化されたルールを子どもたちと決めていく。
- 心理的安全性の高いドッジビーを使用する。

(3) 課題を見付け、自ら見直し、改善しよう意識する児童の姿を目指した取り組み

保護者と連携した生活改善習慣を実施し、「元気アップ週間」の集計結果や保護者のコメント等を保健だよりに記載し、配布した。

体育だより
令和7年8月22日
羽茂小学校体育部 No.10

◎種上運動～6年生走り幅跳び・走り高跳びの実践～

・走り幅跳びと走り高跳びの2種目を入れた単元計画の工夫。
・「楽しい」「やめたい」が無く、ウォーミングアップの工夫。
・自ら考え、課題を解決する姿を目指すための、場の工夫。

1 手立て
(1) 走り幅跳びと走り高跳びを取り組む単元計画

次	時間	学習内容	○目指す姿・留意点
1次	1	走り幅跳び ◎走り幅跳びほどのような動きかな ・見本の動画視聴 ・跳しの運動	◎走り幅跳びの助走、踏切、空中動作の動きが分かる。 ・ワークシート・拡大画像物 ・タブレット・見本の動画 ・タブレット・見本の動画
	2	◎どのくらい高く～跳べるのかな ・自身の試技動画撮影 ・工夫した場での練習	◎動きのポイントを確認し、自分の課題を見付ける。 ・タブレット ・踏切板・ポットボール台 ・マジック
	3	◎自身の課題に合わせた練習の場を選んで練習しよう ・自身の課題に合わせて、場を選択して取り組む ・振り返り	◎自身の課題に応じた練習の場を選んで取り組む。 ・踏切板・ポットボール台 ・マジック
2次	4	走り高跳び ◎走り高跳びほどのような動きかな ・見本の動画視聴 ・跳しの運動	◎走り高跳びの助走、踏切、空中動作が分かる。 ・ワークシート・拡大画像物 ・タブレット・見本の動画
	5	◎どのくらい高く～跳べるのかな ・自身の試技動画撮影 ・工夫した場での練習	◎動きのポイントを確認し、自分の課題を見付ける。 ・業生テープ・タブレット ・高跳び用支柱・ゴム紐
	6	◎自身の課題に合わせた練習の場を選んで練習しよう ・自身の課題に合わせて、場を選択して取り組む ・振り返り	◎自身の課題に応じた練習の場を選んで取り組む。 ・高跳び用支柱・ゴム紐

(2) ウォーミングアップの工夫
スポーツマンレーニアを取り入れ、音楽(120BPM前後のテンポ)に合わせてウォーミングアップを行った。(1) 両足ジャンプ・片足ステップ・スクワット・サイドステップ

(3) 場の工夫

① 助走路にマシヤーを設置する。

指導内容
・助走の距離を決める。
・踏切位置が合わなかったら助走の距離を変える。

② 踏切位置に踏切板を設置する。

指導内容
・バシと音がするように踏み切る。

③ ポットボール台を設置する。

指導内容
・胸をそらす。
・脚の上がった手を下ろす。
・膝を曲げて着地する。

走り高跳び

① マットに対して30°～45°の角度で業生テープを貼る。

指導内容
・線と線の間で助走する。

② 踏切位置に業生テープを貼る。

指導内容
・テープよりも手前で踏み切れるようにする。

③ 高さを変えた場を設置する。(70～90cm, 90～110cm)

指導内容
・自分の目標に合った高さを選ぶ。

(4) その他
体育館やグラウンドに向かう前に、ダグリングをしたり、練習の場を考えたりする時間を設けた。

2 成果と課題
◎様々な工夫により、「〇〇ができていないから～しようかな」などの自身の課題に応じた場を選択するための対話が生まれた。活動中にも友達との動きを見て今のできてきたよなどの課題に関して対話をする姿が見られた。
◎1種目の時間が短いことと単元計画を予め伝えておくことで、集中して学習に取り組むことができた。
◎音楽に合わせてウォーミングアップを行う。動きがズカズカになり、疲弊になったりした。
▲児童の記録の向上を図るには、学習時間が足りなかった。水泳学習も同時に取り組んでいたため、これ以上時間を取ることができなかった。実施時間を前倒しにするなどの改善が必要。
▲適切な課題を見付けることをこれまでに進んだ場を選択することが難しかった。児童の実態を教師自身が把握し、それに合った場を設定することが必要。
▲児童同士の動きの変化に関する対話は多くなかった。ICTを活用し、児童同士動きを分析するなどの時間を設定するなどの改善が必要。

3 成果と課題

公開授業や体育部だより等をとおして、授業に役立つ情報を職員に周知することができた。公開授業では、スキルアップタイムや作戦タイムを設けることで、チームで練習方法を選ぶ話し合いやアドバイスをし合う姿が見られた。

体育部が中心となって実践をまとめた体育だより「情熱体育」を職員間で共有し、他の授業者が成果と課題を踏まえながら、同じように授業を進められる仕組みづくりが整備されている点が評価されます。先生方の体育への熱い想いが伝わってくる取組です。



学校の平均

運動・スポーツが好き	87.7% (県 88.7%)
運動・スポーツへの興味・関心	
する	82.8% (県 85.3%)
見る	74.9% (県 67.4%)○
支える	66.0% (県 52.7%)○
知る	71.9% (県 67.7%)○
つながる	69.0% (県 64.2%)○
体育の授業が楽しい	89.2% (県 91.6%)

事例 21 重点 ① ② ③ ④

もりもりタイムで体力向上

胎内市立胎内小学校

1 重点項目を設定した理由

各学期に業間運動「体力もりもりタイム」を設定する。1学期は体力テストに合わせて、各種目の練習の場を設置し、練習できる場を設定する。2学期はマラソン記録会に合わせて、マラソンカードを活用し、目標をもって練習できるようにする。3学期はなわ跳び大会に合わせて、縦割り班や学級ごとのなわとびカードを活用した練習を計画する。

保健指導の実施・知育部の家庭学習強調週間の実施時期に合わせて、保健指導を全学年で実施する。メディアに関する内容を主に扱い、アウトメディアの重要性について、理解できる場とする。

2 実践の概要／成果と課題

(1) 外部講師による体育授業の取組

4・6年生を対象に地域のアメリカンフットボールチーム「胎内 DEERS」の選手を招き、フラッグフットボールの授業を計5時間ずつ行った。基本技術の習得や思考力・判断力を養う動き（作戦）について、専門的な知見から指導を受けた。また、6年生の市親善陸上競技大会に向けた学習の一環で、開志国際高等学校の陸上競技部員を招き、各種目における体の使い方、練習方法について指導を受けた。どちらの取組も、校外のゲストティーチャーから専門的な指導を受けたことで、楽しく意欲的に体育授業に取り組む児童の姿が見られた。



(2) 業間運動「もりもりタイム」の実施

体力テスト(6月)、マラソン記録会(9月)に向けて、もりもりタイムを実施した。「目標を設定すること」「目標に向けて努力したことを振り返り、次の活動につなげること」を意図し、運動の場やカードを工夫した。体力テストに向けたもりもりタイムでは、昨年の記録を参考にさせたことで、自分の記録の向上をめざす姿が見られた。また、マラソン記録会に向けた取組では、もりもりタイム中だけでなく、その他の休憩時間にも体力を高めようとする児童の姿が見られた。3学期には長なわとび記録会(1月)に向けた取組を行うが、昨年も行っていた活動のため、休憩時間に自主的に長なわとびを行う意欲的な児童の姿がすでに見られている。



(3) メディアコントロールデーの実施

学期に1度の家庭学習強調週間中のうち、1日を「メディアコントロールデー」として、特に意識してメディアコントロールを行う日として取り組ませた。家庭学習強調週間の1週間前に担当が学年児童に対してパワーポイント資料を使ってメディア指導も行い、目的意識をもって、メディアコントロールに取り組めるようにした。家庭・学年によって取組に差は見られるものの、児童の振り返りや保護者からのコメント欄には、「生活を見直すきっかけとなった」「これからも取り組みたい」といった感想が見られた。



校外のリソースを活用し、体育・健康に関する指導の充実を図られている点が評価されます。また、通年実施されている「もりもりタイム」では、目標設定や振り返りまで行われ、児童の活動意欲を引き出すよう設計されている点も参考となります。